

Client Alert

15 August 2025

インドネシア：キーナン・ナスションとヴィディ・アルディアノ間の「ヌアンサ・ベニング」楽曲をめぐる著作権紛争

本アラートに関する
お問い合わせ先：



竹中 陽輔
パートナー
03 6271 9548
Yosuke.Takenaka@bakermckenzie.com



山頭 めぐみ
アソシエイト
03 6271 9538
Megumi.Santo@bakermckenzie.com

事件の概要

ミュージシャンのキーナン・ナスションとポップ・シンガーのヴィディ・アルディアノとの間に注目すべき紛争が発生した。

紛争の中心となっているのは、キーナン・ナスションとルディ・ペケルティが共作し、1978年にリリースされた名曲「ヌアンサ・ベニング」である。この曲は2008年にヴィディがカバーし、デビュー・アルバムのリード・シングルとして使用されたことで人気が再燃した。

キーナンの弁護団によると、ヴィディの父親は当初、自身のレーベルであるスアラ・ハティのもとでこの曲を録音する許可を求めるためにキーナンに接触してきた。しかし、その後正式な合意はなく、ライセンスや印税に関してヴィディや彼のマネジメントからそれ以上の連絡はなかった。

事態は2024年7月、ヴィディのバージョンの曲が、コマーシャルで取り上げられたことで悪化した。キーナンのチームはヴィディのマネジメントに連絡し、ヴィディは5,000万IDR（308万米ドル、4億4,371万2,800円相当）の1回限りの支払いを提案したが、キーナンはこれを拒否した。その代わりに、彼は2008年まで遡る完全な使用報告書を要求した。

2024年8月、キーナンのチームは、SpotifyやApple Musicなどのストリーミング・プラットフォームが、スアラ・ハティではなくVA Recordsをレーベルとして表示し、VA Recordsをソングライターとして誤ってクレジットしていることを発見した。キーナンもルディもVA Recordsとは何の関係もなかった。

両者は、2024年11月に3回会談したが、解決には至らなかった。その結果、キーナンは、2025年5月に中央ジャカルタ商事裁判所に民事訴訟を起こし、この裁判は事件番号51/Pdt.Sus-HKI/Cipta/2025/PN Niaga Jkt.で登録された。

この訴訟でキーナンは、楽曲の無断商用利用を主張し、245億ルピア（150万9,000米ドルまたは2億1,741万8,000円に相当）の損害賠償を求めている。法的手続きにおいて、ヴィディは何度も欠席している。第1回審問は彼の欠席により延期され、第2回審問は彼の弁護なしで進められた。

彼の曲のバージョンは、最初の審問の日にSpotifyからも削除された。ヴィディが3度目に出廷しなかった場合、裁判所はキーナンに有利な不履行判決（verstek）を下す可能性がある。本件訴訟は、現在も商事裁判所に係属中である。